

愛知医科大学 第1回教員活動状況報告書

平成27年3月

目次

はじめに

1	評価の概況	1
2	評価項目について	1
3	自己評価の結果（3年間の平均）	1
	（1）全学	
	（2）医学部	
	・評価の進め方	
	・部門別領域別得点	
	・部門別得点と主な課題等	
	・領域別の傾向	
	（3）看護学部	
	・評価の進め方	
	・職名別領域別得点	
	・職名別得点と主な課題等	
	・看護専門科学系、専門基礎科学系別得点	
4	今後の課題	6
	・医学部	
	・看護学部	
5	まとめ	7
6	添付資料	
	・各講座、診療科等の自己評価（図表4）	
	・領域別の主な課題等（図表5）	
	・ご参考1 教員評価表（医学部）、教員評価表（看護学部）	
	・ご参考2 部門・所属一覧	

はじめに

愛知医科大学長 佐藤 啓二

本学の教員評価は、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 109 条第 1 項の規定に基づき、愛知医科大学における教育研究活動の一層の進展に資するため実施する点検・評価のうち、教員活動に関する点検・評価の実施について「愛知医科大学教員評価規程（平成 22 年 11 月 15 日制定）」を定め、平成 23 年から平成 25 年の 3 年間の第 1 回教員評価期間として活動を開始しました。毎年 1 月 1 日から 12 月 31 日の 1 年間について、教員が自己評価を行ない、3 年間の業績を講座及び診療科等の長が部局の評価をとりまとめ教員活動状況報告書を作成しました。それを基に医学部長及び看護学部長による「教員活動状況報告書」が作成され、両学部の報告書を総括して全学の「教員活動状況報告書」が作成されました。

今回は、予め決められた評価方法によって評価を行ないましたが、様々な検討課題が明確になってきました。組織的な管理運営上の課題や属人的な課題、評価方法や仕組みに関する課題等が見受けられました。組織的な課題等は後述の本篇に記載がありますので、ここでは評価方法についていくつか触れておきます。まず、教員個人の現状が数字で分かり、どう努力すれば良いか基準値が見え、気づかせる仕組みが必要だという指摘がありました。たとえば、個人ごとに、診療業務に従事する時間とその他時間の割合がわかり、教育・研究にどれだけの成果を上げているかを評価することが必要だということです。また、組織内での立ち位置が分かるような比較可能な指標が必要という意見や、個人の達成目標を定め、それに対する達成度評価を行うことが必要であるとの指摘もあります。

教員評価を実施する目的には、(1)評価結果を通して明確になった課題を解決しながら、教員評価の仕組みを活用することで本学の改善や発展に結びつけること、(2) 社会への説明責任を果たすこと、(3) 外部評価機関による点検・評価への対応などがあります。今後は広範な議論を通して、教員評価制度が定着し、教員の自己改善につながり、教育・研究活動の質的向上に貢献し、活動を通じて得られた重要な知見をデータベース化して活用していくことが必要です。そのためには、教員が P D C A を実行していく体制づくりや人づくりこそ最も重要なことであると考えています。これら目的の達成のため、今後とも、教員評価活動を通して本学の使命を果たすべく、教職員が一体となり鋭意取り組んでいきます。

1 評価の概況（2011年1月1日～2013年12月31日）

（1）自己評価の提出状況について（図表1参照）

提出数推移

図表1

部門	2011年	2012年	2013年	3年平均
医学部	241	228	230	233
看護学部	40	32	25	32
計	281	260	255	265

2011年から2013年にかけて提出数は微減傾向にあるが、3年間平均で対象教員数：416名、提出数：265名（提出率63.8%）であった。最低目標値の60%は、達成しているものの、提出率としては低く、今後、更なる提出率の向上を目指していく必要がある。

2 評価項目について

本学の教員評価は、医学部及び看護学部共に基本コンセプト、評価項目のアウトライン、集計ツール等仕組みのベースを同一にした上で、詳細な評価項目等は組織実態に即して若干の相違を持ちながら進めている。ここでは、基本的な評価項目を掲載する。

（詳細は、別紙ご参考1、両学部の教員評価表を参照）

【領域別評価項目】

（1）「教育」領域

①学部学生教育、②研修医教育、③大学院教育、④教員教育（FD）、医療従事者教育、⑥その他

（2）「研究」領域

①著書、教科書等、②原著論文、③学会報告、④受賞、⑤外部資金獲得

（3）「組織運営」領域

①大学の委員会、②学部の委員会、③病院の委員会、④講座関係、⑤その他

（4）「社会貢献」領域

①学内講師、②学外講師、学会役職、行政の委員、マスコミ

3 自己評価の結果（3年間の平均）

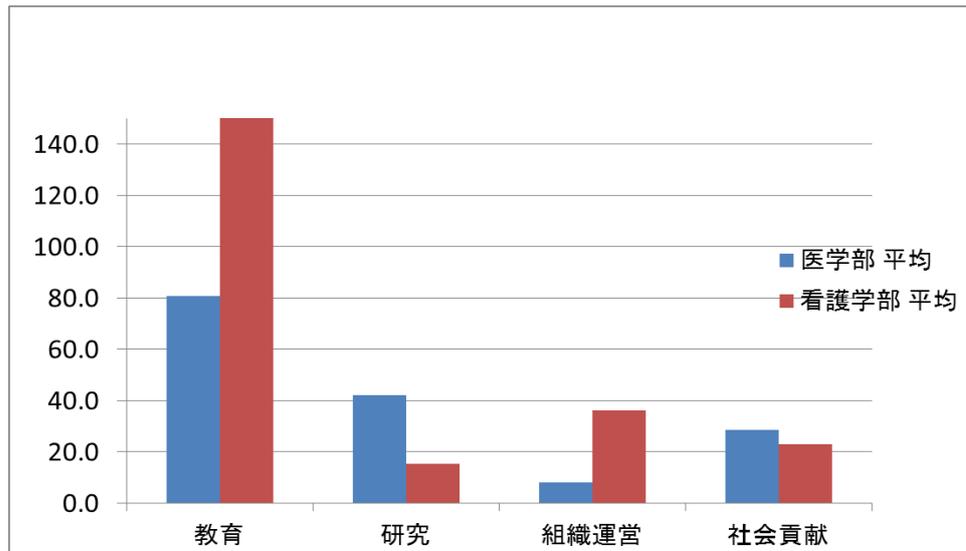
（1）全学部（図表2参照）

全学、学部別平均得点（3年間の平均）

図表2

学部	教育	研究	組織運営	社会貢献	3年平均
医学部 平均	80.8	42.0	8.0	28.5	159.4
看護学部 平均	238.6	15.3	36.1	22.9	313.0
全体の平均	102.1	38.4	11.8	27.8	180.0

図表 2



全学及び各学部の得点は、教育が最も高く、次いで研究、社会貢献、組織運営の順となっている。後述する両学部において、学会報告や論文作成等の研究領域への取り組み度が低く、今後、強化体制の構築が重点課題である。教育は高得点ではあるが、講座等部署や個人差が大きい。これは臨床系若手教員の臨床従事時間が比較的長いことから得点低下の一因ともなっている。組織・社会貢献は総じて得点が低く、積極的な活動が必要である。

(2) 医学部

【評価の進め方等】

3年間の教員活動の評価は、まず各教員が「教育」「研究」「組織運営」「社会貢献」の4領域の得点を集計した。次に各講座及び診療科等の長が各教員の自己評価結果を組織単位でまとめ、総括した。

活動内容は、教員の自己評価結果を各講座及び診療科等の長が総合的に評価を行なった。

組織的には医学部73部署を①基礎科学部門、②基礎医学部門、臨床系を③内科学部門、④同外科学部門、⑤その他部門の3部門、⑥付属施設等の6部門に便宜的に分類した。

<73部署の内訳>

- ①基礎科学部門：一般教育科目の心理学、数学、外国語等8講座
- ②基礎医学部門：解剖学、生理学、生化学、薬理学等の11講座
- ③内科学部門：消化器内科、循環器内科、呼吸器・アレルギー内科等臨床系の内科学15講座
- ④外科学部門：消化器外科、呼吸器外科、乳腺・内分泌外科等の臨床系外科学10講座
- ⑤その他部門：臨床系講座のうち内科学講座と外科学講座を除いた、臨床系講座の11講座と病院各診療科等
- ⑥付属施設等：メディカルクリニック、運動療育センター、総合医学研究機構、先端医学研究センター等（詳細は別紙ご参考2「部門・所属一覧」参照）

【部門別領域別得点】（図表3参照）

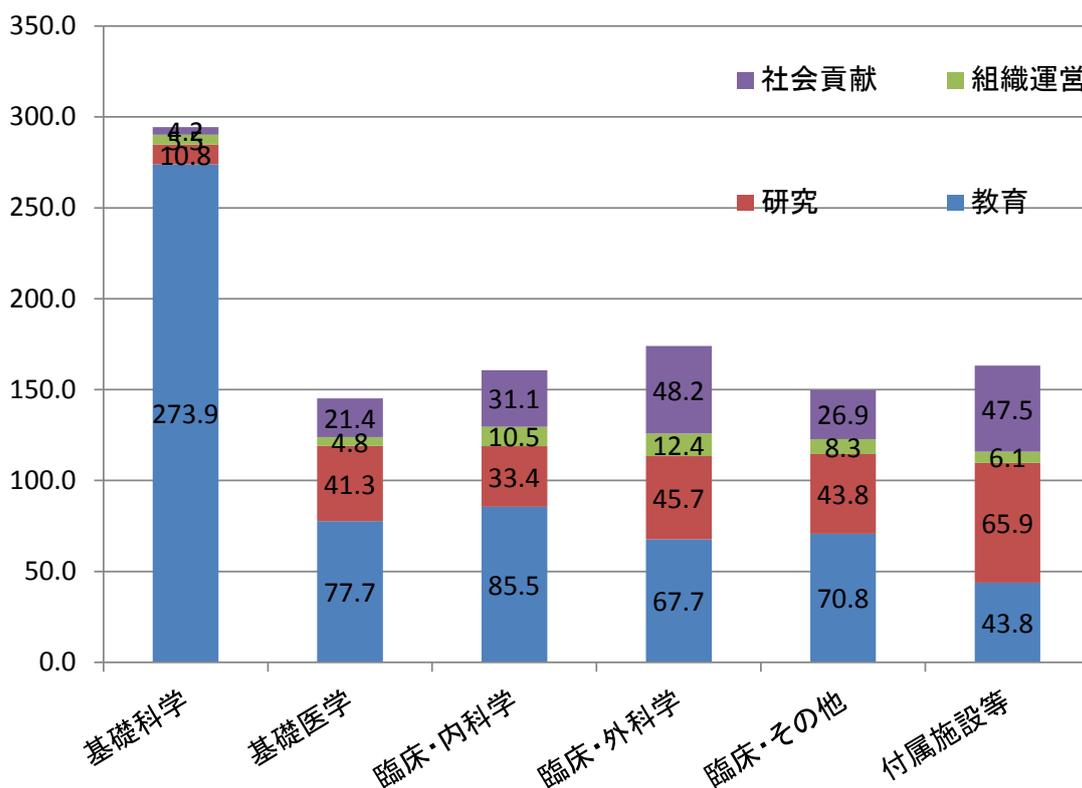
部門別領域別得点状況(3年間の平均)

図表 3

部門	教育	研究	組織運営	社会貢献	計
基礎科学	273.9	10.8	5.5	4.2	294.4
基礎医学	77.7	41.3	4.8	21.4	145.2
臨床・内科学	85.5	33.4	10.5	31.1	160.6
臨床・外科学	67.7	45.7	12.4	48.2	174.0
臨床・その他	70.8	43.8	8.3	26.9	149.7
付属施設等	43.8	65.9	6.1	47.5	163.3

医学部 部門別 領域得点状況(3年間の平均値)

図表 3



【部門別得点と主な課題等】(図表 3 及び別紙図表 4 参照、詳細は、医学部教員活動状況報告書を参照)

- 基礎科学系は、他部門に比べ総得点が約 2 倍と最も高い。これは教育領域において講義回数が多く学生教育の得点が極めて高いことによる。
- 基礎医学系は、全得点の中では教育が 53%と高い。反対に組織運営が低く活性化が必要である。
- 臨床・内科学は、全得点中教育が 53%程度であり臨床系の中では最も高い。研究が平均を下回る教員の底上げと活性化が課題。組織運営は、病院関連会議体への積極参加を促していく。
- 臨床・外科学は、臨床系部門の中では合計点が一番高く、比較的社会貢献が高いことが特徴。
- 臨床・その他は、臨床 3 部門の中では合計点が一番低いが、総じて臨床系の中でも平均的な得点状況である。教育・研究共に点が低く努力が必要との認識が多い。
- 付属施設等は、報告のあった部署が少ないものの、研究の得点は当部門が研究センター主体の構成であることから、臨床系部門と比較して平均で 20 ポイント以上高い(図表 3)。社会貢献面

も他部門に比べ 60 ポイント以上の部署が 3 部署あり全体のポイントを引き上げている。組織運営は低く、今後の努力が必要である。

総合的には、教育領域は高得点であった。平均より低かった部署では、大学院教育、研修医教育、BSL やクリニカルクラークシップ、FD への積極参加等が課題となる。研究面での強化策は、更なる活性化と共に若手教員への学会発表や論文作成の推進が重要である。組織運営、社会貢献領域では、若手教員には困難な場合が多いが積極的参加が必要である。

【領域別の課題】（別紙図表 5 参照、詳細は医学部教員活動状況報告書を参照）

●教育分野

大学院教育、教員教育、BSL、クリクラ等を加速させたいと考える講座等が多かった。

●研究分野

若手教員を含めて学会発表や論文作成に積極的に取り組むとする部署が多かった。

●組織運営分野

若手教員には貢献が難しい、組織側からも工夫をしてほしいとする声など会議の効率や組織改革を望む声があり検討を要すると考える。

●社会貢献分野

若手教員には組織運営と同様に貢献が困難との意見が多かった。

(3) 看護学部

【評価の進め方】

3 年間の教員活動の評価は、医学部のように講座規模の組織編成ではないことから、職名別に集計して教員活動を評価する方法と、授業科目の「分野・領域」別に集計して評価する方法に分けて行うこととした。

○職名別集計

教員評価の活動内容を教授、准教授、講師、助教の 4 職名別に分類した上で「教育」「研究」「組織運営」「社会貢献」の 4 領域に分け、得点集計を行った。

○分野・領域別集計

授業科目群を「分野・領域」に分類した上で「教育」「研究」「組織運営」「社会貢献」の 4 領域に分け、得点集計を行った。

＜「分野・領域」の内訳＞

専門基礎科学系

・病態治療学／病態機能学／病態保健学／医療英語

看護専門科学系

・基礎看護学 I・II／成人看護学（治療・回復過程）／成人看護学（療養生活支援）／在宅看護学／母性看護学／小児看護学／老年看護学／精神看護学／地域看護学／感染看護学／急性・重症患者看護学

【職名別得点】（図表 6 参照）

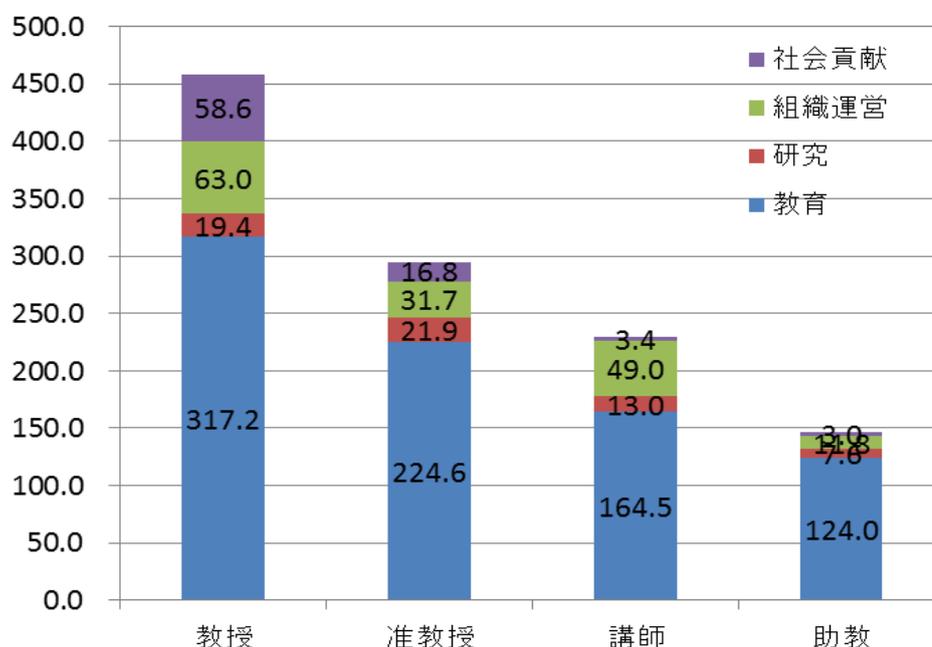
職名別領域別得点状況

図表6

	教育	研究	組織運営	社会貢献	平均(3年分)
学部平均	210.9	15.3	36.1	22.9	285.1
教授	317.2	19.4	63.0	58.6	458.1
准教授	224.6	21.9	31.7	16.8	295.0
講師	164.5	13.0	49.0	3.4	229.9
助教	124.0	7.6	11.8	3.0	146.4

看護学部 職名別 領域得点状況(3年間の平均値)

図表6



【職名別得点と主な課題等】

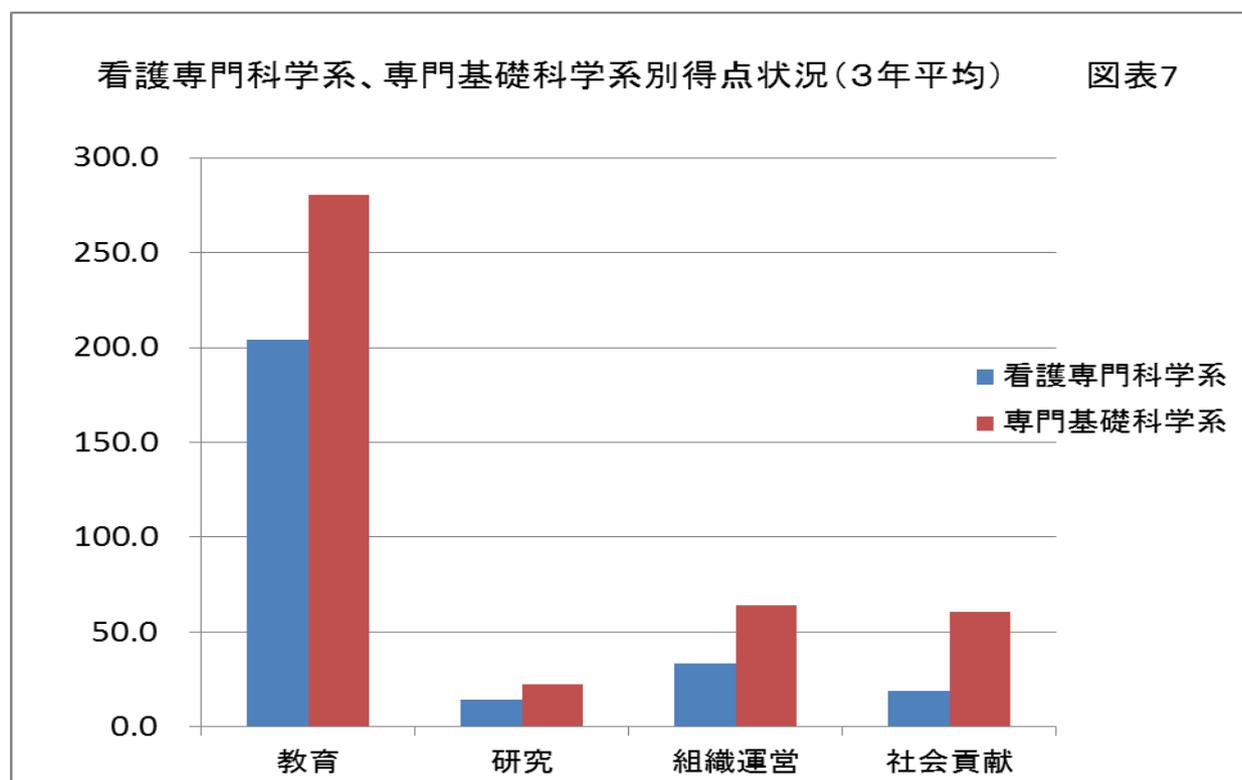
看護学部の特徴として、教育の得点が高く、研究が低い傾向にあった（合計得点中、教育は 73.5%、研究は 5.5%の占有率である）。大学院教育等教育負担が高いことや教員を支援する体制が弱いことなどによる。職名別では総合、教育、社会貢献については教授、准教授、講師、助教、研究については准教授、教授、講師、助教、組織運営については教授、講師、准教授、助教の順の得点であった。

専門基礎科学系の各領域は、総合点も高く、教育に加え研究、組織運営、社会貢献も含め広範に得点していると言えよう。一方、看護専門科学系の各領域は、概ね 150 点から 300 点の間に推移しており、今後、学会発表、論文作成等研究面の更なる活性化が必要である。組織運営、社会貢献の活性化も併せて推進していく必要がある。

【看護専門科学系、専門基礎科学系別得点状況】（図表7参照）

図表7

	教育	研究	組織運営	社会貢献	平均(3年分)
看護専門科学系	203.9	14.5	33.3	19.1	270.8
専門基礎科学系	280.3	22.7	64.3	60.9	428.2
学部平均	210.9	15.3	36.1	22.9	285.1



専門基礎科学系は、看護専門科学系に比べ、総合点も高く、教育に加え組織運営、社会貢献も含め広範に得点しているが、研究領域は低く更なる活性化が必要である。一方、看護専門科学系は、概ね150点から300点の間に推移しており、教育以外は低い。今後、学会発表、論文作成等研究面の活性化に加え、組織運営、社会貢献の活性化も併せて推進していく必要がある

4 今後の課題（組織横断的に共通する課題や今後検討が必要な課題）

<医学部>

□教員評価活動に対し、協力体制が不十分である

度重なる自己評価の提出依頼を行っても、積極的な参加が得られない一部の教員の実態。報告数は45部署で提出率は61.6%と低率であった。原因としては、教員評価を行なうことへの必要性の認識が不足していることが課題である。

□評価基準やパフォーマンス測定について

講座の特徴や人員構成、組織的ニーズ、教員の年齢層や役職による機会の相違など教員を取り巻く様々な環境の中、一律な評価基準や価値では適切な評価が難しいとの意見があり評価方法の見直し

が課題である。

□論文発表や助成金の獲得など、競争的成果について

競争的成果を上げる教員が高く評価される制度を望む意見があった。上記評価項目の多様性を求める考えとは一線を画すものだが、併せて検討すべき課題である。

□組織運営や社会貢献は、若手医師には貢献が難しい。

□診療業務への貢献と他業務貢献との最適化

臨床系では、診療業務への貢献と他業務とのバランスが課題となる。

<看護学部>

□自己評価の提出率の改善に向けての対策

提出率は 69.8%と低率であり減少傾向にある。自己評価表提出に対する教員のモチベーションを高めるための方策が課題である。

□研究活動の活性化と対策について

教育活動に比較し研究活動が低いので、研究活動（とくに将来を担う助教・講師）の推進が必要である。教育負担が多く研究活動の時間が不足するので負担の軽減策が検討課題である。

(検討課題)

競争的資金獲得申請の支援、領域を越えた研究協力体制、論文作成支援、大学院博士課程への就学の支援等

5 まとめ

本学は、2011年から2013年の3年間の業績を自己評価し、各部局及び全学の教員活動状況報告書をまとめ、第1回教員評価を実施した。今回の活動は、評価結果及び制度の有効性や実効性の検証を行うことも目的としていることから、今回の検証に加え、3年後の第2回教員評価の結果との比較検討を待たねばならない。

そのような中、今回は本学にとり初めての教員評価活動であるが、様々なことが明確になってきた。臨床系の部局においては教育、研究、組織運営、社会貢献の各領域の中で、2014年度に完成した新病院建設とその体制づくりを進めるなか、診療活動とのバランスに苦慮しながらも教育活動はおおむね高得点であった点は評価できる。一方、各講座各部局等の様々な課題も見えてきている。例えば、教員評価制度への参加率の低さ、一律な評価基準や価値による適切な評価の困難さ、競争的成果への評価配分の見直し、若手医師は組織運営・社会貢献が困難な場合があること、研究活動の活性化に向けた支援策など多様な課題がある。

教員評価導入の真の目的は、今回の評価結果を通して、課題を謙虚に受け止め、教員評価の仕組みを活用することで本学の発展に結びつけることにある。そのためには、顕在化した課題解決に取り組みながら、全員参加型でわかり易く負担の少ない仕組みを構築していくこと、併せて組織目標を考慮した個人目標を策定し、結果の振り返りにより今後の改善を教員が自ら考えていくような仕組み作りと意識改革が重要であると考えている。その延長線上で教員活動が益々活性化され、組織力が強化され、本学の教育・研究活動を質的に向上させていくことが必要である。

各講座、診療科等の自己評価（図表4）

	基礎科学		基礎医学		臨床・内科学		臨床・外科学		臨床・その他		付属施設等	
教育	○授業が多く高得点	4	○負担の平均化が必要である	1	○ポイント計算が正しくない教員の可能性	1	○スタッフ間のバラツキが少ない	1	○得点が低い、努力が必要	4	○積極的な展開が必要	1
	○時間だけでなく教育内容も注力する	2	○努力を要する	3	がある				○講義、大学院教育、BSL、クリクラ、	6	○クリクラの可能な体制が整った	1
	○効率的で効果のある教育が見直し、改善	1	○大学院教育、教員教育、PBL強化	3	○部門平均以下、努力を要する	2			教員教育を積極的に行う		○新たな医学教育項目「を設定し、	1
	○講義担当数の不均衡を是正する必要有り	1	○負担の平均化は困難	1	○研修医教育、大学院教育、教員教育、	2			○カリキュラムの見直し、臨床実習内容	1	貢献していく	
					BSL、クリニックグループを促す				・方向の再検討により教員の参加を促す		○平均的、個人差が大きい	1
					○負担集中→平準化を図る	1			○負担の集中がある	1	○点数化されない反映されない面がある	1
									○積極的に今後活動する	1		
研究	○ポイントが低く努力が必要	4	○十分行っている	1	○大きく下回る教員がいる	1	○研究の低い者→学会発表、論文作成の	2	○若手にも学会発表や論文作成を促す	7	○積極的な展開が必要	1
	○学会発表、論文作成を積極的に行う	4	○学会発表、論文作成を積極的に行う	3	○能力・志の高い者への組織支援が必要	1	積み重ねが学位取得に直結することを		○得点が低い、努力が必要	7	○学会発表、論文作成を積極的に行う	1
	○臨床と協同研究を実施	1	○負担の平均化は困難	1	○活性化が課題	1	認識させる。優れた医師の育成に努めたい。		○教育主体のCで研究の向上は困難	1	○施設の性格上比重が高い	1
			○不十分、努力が必要	1	○学会発表、論文作成を積極的に行う	1			○研究面で努力、活動の活性化が必要	3	○今後も教育・研究を主体とした努力	
					○医師のリクルートを行いたい	1			○国際的に注目される医師も育てて	1	を継続する	1
									いる。若手医師の継続的に育成する		○世界に発信できる質の高い研究を目指す	1
組織	○講座に教員がいないので貢献が難しい	1	○若手教員には貢献は不利	3	○病院関連会議中心に参加を促す	2			○若手医師が委員会に参加するのは困難		○各種委員会への積極的な参加を意識	1
	○基礎医学・臨床医学とのシームレスな	1			○時間調整、ワークシェア、会議時間回数	1			、組織側の工夫を望む	1	したい	
	教育、学内活動を心がける				縮減など組織改革を行う				○病院関連委員会に積極的に参加する	4	○講座全体として低い	1
	○積極的に参画中	2							○若手医師に委員会担当を促す	1		
	○組織運営と社会貢献の責任をバランス	1							○組織運営を考えるよう意識改革中	1		
	よく果たしていく											
社会貢献	○積極的に行いたい	2	○若手教員には貢献不利	1	○教育・研究連携や医療連携などに努力	1			○理事、評議員、公開講座、講演を中心	4	部門平均のおよそ5分の1と低い、努力要	
	○市民講座等実施中	1	○他大学の講義委嘱が多く危惧される	1					として、後進の育成、貢献に努力する。			
									○得点が低い	3		
									○地域連携で積極的に参加していく	1		
その他			○競争的成果（論文発表、助成金獲得）	1	○督促しても提出しない教員	2	○年長スタッフは点が高く、若手は低い。	1	○組織の配置が1名は異常（少ない）	1	○センターの存在意義・機能を真剣に	1
			が評価される制度を望む		○多大な診療業務とのバランスを保つこ	1	若手は臨床に従事する時間が長い		○産休による欠員補充・増員が課題。	1	議論し、抜本的な改革が必要	
			○督促しても提出しない教員	1	とが重要である。		○医局内のポジションのステップアップ	1	○提出率が低い、来期の課題	1	○全領域で低調であった	1
			○個々に目標をかかげさせ教員の意識を	1	○教員の特性を考慮、領域別に期待値を	1	に合わせて、指導していく。		○臨床的研究の体制強化を実施	1		
			高める必要がある		丁寧に設定する。		○若手医師が積極的に貢献できる場を	1	○他施設共同研究への参画	1		
							提供する		○研究専念期間の導入	1		
									○教育・研究連携や医療連携で貢献、	2		
									努力する。			
									○督促しても提出しない教員がいる	1		

領域別の主な課題等（図表5）

教育分野	頻度	累計	占有率
大学院教育、教員教育、BSL、クリニック等を促す	11	11	31.4%
得点が低い、努力が必要である	9	20	57.1%
授業が多く高得点になっている	4	24	68.6%
講義担当数の不均衡を是正する必要がある	4	28	80.0%
教育内容も注力していく	2	30	85.7%
負担の平均化は困難	1	31	88.6%
スタッフ間のバラツキが少ない	1	32	91.4%
カリキュラム、臨床実習の再検討で教員の参加を促す	1	33	94.3%
積極的な展開が必要	1	34	97.1%
新たな医学教育項目を設定し貢献していく	1	35	100.0%
計	35	35	100.0%

研究分野	頻度	累計	占有率
得点が低い、努力が必要である	16	16	36.4%
学会発表、論文作成を積極的に行う	11	27	61.4%
若手教員にも学会発表、論文作成を促す	7	34	77.3%
研究が今は十分にできている	1	35	79.5%
負担の平均化は困難	1	36	81.8%
得点が大きく下回る教員がいる	1	37	84.1%
能力、志の高い者には支援が必要	1	38	86.4%
臨床と協同研究を行っていく	1	39	88.6%
教育主体のセンターであり研究の向上は困難	1	40	90.9%
国際的に通用する人材の育成を継続する	1	41	93.2%
積極的な展開が必要	1	42	95.5%
教育研究主体とした努力を継続していく	1	43	97.7%
世界に通用する質の高い研究を目指す	1	44	100.0%
計	44	44	100.0%

組織運営	頻度	累計	占有率
病院関連会議中心に参加を促す	7	7	36.8%
若手教員には貢献は不利	3	10	52.6%
積極的に参加中	2	12	63.2%
講座に教員がいないので貢献が難しい	1	13	68.4%
基礎医学、臨床医学との教育、学内連携を心がける	1	14	73.7%
組織運営と社会貢献の責任をバランスよく果たしていく	1	15	78.9%
時間調整、ワークシェア、会議縮減など組織改革を行う	1	16	84.2%
若手医師が委員会に参加するのは困難、組織側の工夫を望む	1	17	89.5%
組織運営を考えるよう意識改革中	1	18	94.7%
各種委員会への積極的な参加を意識したい	1	19	100.0%
計	19	19	100.0%

社会貢献	頻度	累計	占有率
理事、評議員、公開講座、講演等への貢献、後進育成に努力	4	4	26.7%
得点が低い、努力が必要	4	8	53.3%
積極的に行いたい	2	10	66.7%
市民講座等実施中	1	11	73.3%
若手教員には貢献は不利	1	12	80.0%
他大学の講義委嘱が多く危惧される	1	13	86.7%
教育・研究連携や医療連携などに努力していく	1	14	93.3%
部門平均に比べかなり高い上、高い外部評価を獲得してる	1	15	100.0%
計	15	15	100.0%

その他	頻度	累計	占有率
督促しても提出しない教員がいる	4	4	23.5%
教育・研究連携や医療連携で貢献	2	6	35.3%
競争的成果が評価される制度を望む（論文発表、助成金獲得）	1	7	41.2%
個々に目標を掲げさせ教員の意識を高める必要がある	1	8	47.1%
多大な診療業務とのバランスを保つことが課題	1	9	52.9%
教員の特性を考慮、領域別に期待値を丁寧に設定する	1	10	58.8%
年長スタッフは点が高く、若手は低い	1	11	64.7%
若手医師が積極的に貢献できる場を提供する	1	12	70.6%
提出率が低い、来期の課題	1	13	76.5%
産休等の欠員補充が課題	1	14	82.4%
他施設共同研究への参画	1	15	88.2%
センターの存在意義・機能を真剣に議論し抜本的改革が必要	1	16	94.1%
多種多様な業務を実施中、評価項目の検討を望む	1	17	100.0%
計	17	17	100.0%

教員評価表（医学部）

ご参考1

所属	職名	職員番号	氏名	提出期限
医学部	ダミー	a99999	愛知 太郎	2013/2/28

領域	2011	2012	2013	合計
1 教育	0	0	0	0
2 研究	0	0	0	0
3 組織運営	0	0	0	0
4 社会貢献	0	0	0	0
総合ポイント	0	0	0	0

領域合計点へ	1教育	基準単位	ポイント		2011	2012	2013	小計
	(1) 学生教育							
	(a) 通常講義	1コマ	2	件数	0	0	0	0
		コーディネーター	5	件数	0	0	0	0
				ポイント計	0	0	0	0
	(b) 総合医学	1コマ	2	件数	0	0	0	0
				ポイント計	0	0	0	0
	(c) 留年生補習講義	1コマ	2	件数	0	0	0	0
				ポイント計	0	0	0	0
	(d) 他の学部/大学の講義	1コマ (学内)	2	件数	0	0	0	0
		1大学 (学外)	4	件数	0	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0	0
	(e) チュートリアル	参加1回	2	件数	0	0	0	0
		シナリオ作成・BU	10	件数	0	0	0	0
				ポイント計	0	0	0	0
	(f) 基礎実習	1回/日	1	件数	0	0	0	0
				ポイント計	0	0	0	0
	(g) BSL	1週間以上/年	40	件数	0	0	0	0
		1週間未満/年	20	件数	0	0	0	0
				ポイント計	0	0	0	0
	(h) クリクラ	1名	5	人数	0	0	0	0
				ポイント計	0	0	0	0
	(i) OSCE	評価者/station	5	件数	0	0	0	0
		学内・学外共通		ポイント計	0	0	0	0
	(j) CBT	問題作成	5	件数	0	0	0	0
		ブラッシュアップ(BU)	10	件数	0	0	0	0
				ポイント計	0	0	0	0
	(k) 卒業試験	問題作成	5	件数	0	0	0	0
		ブラッシュアップ	15	件数	0	0	0	0
				ポイント計	0	0	0	0
	(1) 入学試験	問題作成	20	件数	0	0	0	0
		採点	10	件数	0	0	0	0
		面接/回	5	件数	0	0	0	0
		監督/回	5	件数	0	0	0	0
				ポイント計	0	0	0	0
	(2) 研修医教育	1名	1	件数	0	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0	0
	(3) 大学院教育	直接指導/1名	10	件数	0	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0	0
	(4) 教員教育 (FD)	タスクフォース/回	5	件数	0	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0	0
	(5) 医療従事者教育	講義/回	5	件数	0	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0	0
	(6) その他	具体的に記載	5	件数	0	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0	0
				ポイント合計	0	0	0	0

領域合計点へ	2研究	基準単位	単位ポイント		2011	2012	2013	小計
	(1) 著書, 教科書等		点/冊					
	(a) 著書・教科書 (説明参照)	英文	15	件数	0	0	0	0
		和文	10	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(1)-(a)		ポイント計	0	0	0	0
	(b) 参考書等 (説明参照)	英文	10	件数	0	0	0	0
		和文	5	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(1)-(b)		ポイント計	0	0	0	0
	(c) その他 (説明参照)		3	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(1)-(c)		ポイント計	0	0	0	0
				ポイント小計	0	0	0	0
	(2) 原著論文	インパクトファクターの調べ方	1編当たり					
	(a) 欧文誌 1	IF \geq 5 1st/2nd/correspond	15	件数	0	0	0	0
	Web of science ID または PubMedに掲載されている論文	IF \geq 5 others	3	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(2)-(a)-1		ポイント計	0	0	0	0
		IF \geq 1 1st/2nd/correspond	10	件数	0	0	0	0
		IF \geq 1 others	2	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(2)-(a)-2		ポイント計	0	0	0	0
		IF $<$ 1 1st/2nd/correspond	5	件数	0	0	0	0
		IF $<$ 1 others	1	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(2)-(a)-3		ポイント計	0	0	0	0
		IFなし 1stのみ	3	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(2)-(a)-4		ポイント計	0	0	0	0
	(b) 欧文誌 2	1stのみ評価	3	件数	0	0	0	0
	上記以外の論文	提出資料記号 2-(2)-(b)		ポイント計	0	0	0	0
	(c) 和文誌 1	学会誌などで筆頭者のみ評価	2	件数	0	0	0	0
	医中誌に掲載されている論文	提出資料記号 2-(2)-(c)-1		ポイント計	0	0	0	0
		その他で筆頭者のみ評価	1	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(2)-(c)-2		ポイント計	0	0	0	0
	(d) 和文誌 2	筆頭者のみ評価	1	件数	0	0	0	0
	上記以外の論文 研究報告書などもここに記載	提出資料記号 2-(2)-(d)		ポイント計	0	0	0	0
				ポイント小計	0	0	0	0
	(3) 学会報告							
	(a) 国際学会	特別講演演者	20	件数	0	0	0	0
		特別講演座長	10	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(3)-(a)-1		ポイント計	0	0	0	0
		シンポジウム演者	15	件数	0	0	0	0
		シンポジウム座長	10	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(3)-(a)-2		ポイント計	0	0	0	0
		一般口演演者	10	件数	0	0	0	0
		一般口演座長	5	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(3)-(a)-3		ポイント計	0	0	0	0
		ポスター発表者	2	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(3)-(a)-4		ポイント計	0	0	0	0
	(b) 国内学会	特別講演演者	15	件数	0	0	0	0
		特別講演座長	10	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(3)-(b)-1		ポイント計	0	0	0	0
		シンポジウム演者	10	件数	0	0	0	0
		シンポジウム座長	10	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(3)-(b)-2		ポイント計	0	0	0	0
		一般口演演者	5	件数	0	0	0	0
		一般口演座長	3	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(3)-(b)-3		ポイント計	0	0	0	0
		ポスター発表者	1	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(3)-(b)-4		ポイント計	0	0	0	0
	(c) 地方会レベル	特別講演演者	5	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(3)-(c)-1		ポイント計	0	0	0	0
		シンポジウム演者	3	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(3)-(c)-2		ポイント計	0	0	0	0
		一般口演演者	1	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(3)-(c)-3		ポイント計	0	0	0	0
	(d) 研究会レベル	特別講演演者	3	件数	0	0	0	0
		一般発表演者	1	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(3)-(d)		ポイント計	0	0	0	0
				ポイント小計	0	0	0	0

(4) 受賞							
(a) 全国レベル	国際レベルに匹敵	50	件数	0	0	0	0
	上記以外	30	件数	0	0	0	0
	提出資料記号 2-(4)-(a)		ポイント計	0	0	0	0
(b) 地方レベル	地方でトップクラスの賞	30	件数	0	0	0	0
	上記以外	10	件数	0	0	0	0
	提出資料記号 2-(4)-(b)		ポイント計	0	0	0	0
(c) 学会関係	学会で優れた功績を顕彰	20	件数	0	0	0	0
	最優秀演題	10	件数	0	0	0	0
	優秀演題	5	件数	0	0	0	0
	提出資料記号 2-(4)-(c)		ポイント計	0	0	0	0
(d) その他		10	件数	0	0	0	0
	提出資料記号 2-(4)-(d)		ポイント計	0	0	0	0
			ポイント小計	0	0	0	0
(5) 外部資金獲得	研究費(継続年もカウントする)	点/件					
	公的機関の研究助成金 代表	30	件数	0	0	0	0
	科研/厚労科研/文科省など 分担	10	件数	0	0	0	0
	提出資料記号 2-(5)-1		ポイント計	0	0	0	0
(代表のみ評価)	財団・NPOなどの研究助成金 代表	10	件数	0	0	0	0
	提出資料記号 2-(5)-2		ポイント計	0	0	0	0
	企業との受託・共同研究/件	10	件数	0	0	0	0
	提出資料記号 2-(5)-3		ポイント計	0	0	0	0
			ポイント小計	0	0	0	0
			ポイント合計	0	0	0	0

領域合計点へ	3組織運営	基準単位	単位ポイント		2011	2012	2013	小計
	委員会名簿参照 (アクセスコード:0123)	1年間	1委員会あたり					
(1) 大学の委員会	委員	2	件数	0	0	0	0	0
	委員長	5	件数	0	0	0	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0	0	0	0
(2) 学部の委員会	委員	2	件数	0	0	0	0	0
	委員長	5	件数	0	0	0	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0	0	0	0
(3) 病院の委員会	委員	2	件数	0	0	0	0	0
	委員長	5	件数	0	0	0	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0	0	0	0
(4) 講座関係	医局長・講座長病棟・外来医長	5	件数	0	0	0	0	0
			ポイント計	0	0	0	0	0
(5) その他	具体的に	5	件数	0	0	0	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0	0	0	0
			ポイント合計	0	0	0	0	0

領域合計点へ	4 社会貢献	基準単位	単位ポイント	2011	2012	2013	小計
	(1) 学内		点/回				
		公開講座講師	5	件数	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
		新入生ガイダンス講師	5	件数	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
		その他のイベントの講師	5	件数	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
	(2) 学外	役職/年	点/役				
		公開講座講師	10	件数	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
	(a) 国際または全国規模の学会	理事・監事	20	件数	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
		評議員・代議員・幹事	10	件数	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
		大会長	20	件数	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
		その他	10	件数	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
	(b) 地方会レベルの学会	理事・監事	10	件数	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
		評議員・代議員・幹事	5	件数	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
		大会長	10	件数	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
	(c) 行政	国	委員会などの委員	10	件数	0	0
		自治体	委員会などの委員	5	件数	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
		その他	10	件数	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
	(d) マスコミ	新聞・TV報道	全国レベル	20	件数	0	0
			地方レベル	10	件数	0	0
		提出資料記号 4-(2)-(d)-1		ポイント計	0	0	0
	交流	教育・研究連携	5	件数	0	0	0
		医療連携	5	件数	0	0	0
		提出資料記号 4-(2)-(d)-2		ポイント計	0	0	0
			ポイント合計	0	0	0	0

教員評価表（看護学部）

ご参考1

所属	職名	職員番号	氏名	提出期限
ダミー	ダミー	a99998	愛知 花子	2013/2/28

領域	2011	2012	2013	合計
1教育(看)			0.0	0.0
2研究(看)			0.0	0.0
3組織運営(看)			0.0	0.0
4社会貢献(看)			0.0	0.0
総合ポイント			0.0	0.0

1. 教育 領域合計点へ ポイント合計
0.0

(1)学部教育

(a)授業

■科目責任者(教養・専門ゼミも含む)	3点
■試験・レポート採点(問題作成も含む)	6点(1クラス50名以上、50名未満は3点、再試は2点)／採点者数
■講義	1コマ2点(AB、2クラスに分けて行う場合それぞれ2点とする)
■演習	1コマ1点
■教養ゼミ、専門ゼミ	1コマ1点

授業科目名	学年	学期	講義コマ数	演習コマ数	成績評価の有無 (試験・レポート) ／採点者数	試験の回数	科目責任者の 有無	ポイント
例)病態治療学	2	前期	15	3	試験／3	中間1,期末1,再試	有	44.0
								0.0
								0.0
								0.0

ポイント小計
0.0

医学部授業

授業科目名	学年	学期	講義コマ数	学部名	ポイント
例)分子病態学	3	前期	1	医学部	2.0
					0.0
					0.0

ポイント小計
0.0

(b)実習

■実習	1日1点
■科目責任者	実習期間あたり3点
■成績評価	実習全クールあたり6点／採点者数

授業科目名	学年	学期	担当日数	成績評価の有無 ／評価者の 人数	追再実習日数	科目責任者	ポイント
例)療養生活支援	3	後期	40	有／3	5	有	50.0
							0.0
							0.0
							0.0

ポイント小計
0.0

(c)卒業研究

■個人研究	1名 10点
■グループ研究	1名 2点(5名以内は1律10点)

科目名	研究課題	学生名	ポイント
			0.0

ポイント小計
0.0

(d)看護総合

■問題作成	1問0.5点
-------	--------

問題作成試験 科目名	試験名	問題数	ポイント
例)形態・病態	看護総合1回目	30	15.0
			0.0

ポイント小計
0.0

■解説講義	1回1点
-------	------

解説講義 担 当領域	試験名	実施日	ポイント
例)病態治療学	看護総合1回目	2月1日	1.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(e)入試(推薦・社会人)

■推薦・社会人	10点
■面接	5点

試験科目名	実施日	問題作成の有無	面接の有無	ポイント
例)小論文	2月1日	有	無	10.0
				0.0

ポイント小計
0.0

入試(一般)

■一般問題作	20点
--------	-----

試験科目名	実施日	問題作成	ポイント
例)国語	2月1日	有	20.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(f)国試対策

■補講	1コマ2点
-----	-------

補講科目	実施時期	コマ数	ポイント
			0.0

ポイント小計
0.0

(2)卒業教育

■講習会講師 1コマ2点 (医大病院看護部に限る)			
補講科目	実施時期	コマ数	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(3)大学院教育

(a)授業

■科目責任者 3点 ■講義 1コマ2点 ■演習 1コマ2点						
授業科目名	学年	学期	講義コマ数	演習コマ数	科目責任者	ポイント
						0.0
						0.0
						0.0

ポイント小計
0.0

(b)実習

■実習 1日1点 ■科目責任者 実習期間あたり3点					
授業科目名	学年	学期	担当日数	科目責任者	ポイント
					0.0
					0.0

ポイント小計
0.0

(c)修士論文

■主査 20点 ■副査 5点 ■審査委員 5点		
主査 領域名	学生名	ポイント
例)老年	愛知 花子	20.0
		0.0

ポイント小計
0.0

副査 領域名	学生名	ポイント
例)精神	愛知 花子	5.0
		0.0

ポイント小計
0.0

審査 領域名	学生名	ポイント
例)母性	愛知 花子	5.0
		0.0

ポイント小計
0.0

(d)入試

■問題作成・採点 10点 ■面接 5点				
試験科目名	実施日	問題作成	面接	ポイント
例)老年	2月1日	有	有	15.0
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(3)看護実践センター

(a)授業

■科目調整者 2点 ■講義 1コマ2点 ■演習 1コマ1点				
授業科目名	講義コマ数	演習コマ数	科目調整者	ポイント
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(b)実習

■科目調整者 2点 ■実習 1日1点				
授業科目名	担当日数	成績評価	科目調整者	ポイント
				0.0

ポイント小計
0.0

(c)修了試験

■問題作成 1問0.5点			
試験科目名	実施日	問題作成・採点 /作成・採点者 数	ポイント
			0.0

ポイント小計
0.0

(d)入試

■問題作成・採 10点				
■面接 5点				
試験科目名	実施日	問題作成	面接	ポイント
例)老年	2月1日	有	有	15.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(e)センター研究指導

■1名 10点			
科目名	研究課題	学生名	ポイント
			0.0

ポイント小計
0.0

2. 研究	領域合計点へ	ポイント合計 0.0
--------------	------------------------	----------------------

(1)著書、教科書
PubMed,医中誌に掲載のないものは最初のページのコピー(雑誌名、タイトル、著者などが確認できるページ)を、資料記号(資料 2-(1))を記入した上で提出

(a)教科書

教科書分担執筆

■教科書分担執筆 英文	2
■教科書編集 英文	10
■教科書分担執筆 和文	1
■教科書分担編集 和文	5

著者	タイトル	誌名	巻	ページ	年	Pubmed ID	ポイント
							0.0
							0.0

ポイント小計
0.0

教科書監修編集

著者	タイトル	誌名	巻	ページ	年	Pubmed ID	ポイント
							0.0

ポイント小計
0.0

DVD

■DVDなど	5
--------	---

著者	タイトル	誌名	巻	ページ	年	Pubmed ID	ポイント
							0.0

ポイント小計
0.0

ガイドライン

■ガイドライン110/作成者数	
-----------------	--

著者	タイトル	誌名	巻	ページ	年	Pubmed ID	ポイント
							0.0

ポイント小計
0.0

(2)原著論文
PubMed,医中誌に掲載のないものは最初のページのコピー(雑誌名、タイトル、著者などが確認できるページ)を、資料番号(資料 2-(2))を記載した上で提出

(a)欧文誌 1
(PubMed掲載有り)

■IF≥5 1st/2nd/correspond	75	インパクトファクター(IF参照)
■IF≥5 others	15	
■IF≥1 1st/2nd/correspond	50	
■IF≥1 others	10	
■IF<1 1st/2nd/correspond	25	
■IF<1 others	5	

著者	タイトル	誌名	巻	ページ	年	Pubmed ID	インパクトファクター	ポイント
例) Yamashita	Four paramete	J Hum Genet.	57	368-74	2012	22513715	2.57	10.0
								0.0
								0.0
								0.0
								0.0

ポイント小計
0.0

(b)欧文誌 2
(PubMed掲載のないもの、IFのないもの)

■1stのみ(重要な論文である理由)	15	
■IF<1 others	3	
原著	総説・報告	資料

著者	タイトル	誌名	巻	ページ	年	ポイント
						0.0
						0.0

ポイント小計
0.0

(c)和文誌1
(全国規模学会誌)

■原著		■総説・報告		■資料	
筆頭者	10	筆頭者	5	筆頭者	2
2nd/correspond	5	others	1	others	1
others	2				

著者	タイトル	原著・総説・報告・資料	誌名	巻	ページ	年	医中誌ID	ポイント
例) 井村幸恵、	透析室の看護	原著	日本環境感染	27	91-95	2012	2012187174	5.0
								0.0
								0.0
								0.0
								0.0
								0.0

ポイント小計
0.0

(c)和文誌2
(紀要その他:査読のある雑誌)

■原著		■総説・報告		■資料	
筆頭者	5	筆頭者	3	筆頭者	1
2nd/correspond	3	others	1	others	0.5
others	1				

著者	タイトル	原著・総説・報告・資料	誌名	巻	ページ	年	医中誌ID	ポイント
								0.0
								0.0

ポイント小計
0.0

(c)和文誌3
(査読のない雑誌)

■原著		■総説・報告		■資料	
筆頭者	3	筆頭者	2	筆頭者	1
others	1	others	1	others	0.5

著者	タイトル	原著・総説・報告・資料	誌名	巻	ページ	年	医中誌ID	ポイント
								0.0
								0.0

ポイント小計
0.0

(3)学会報告 (演者は発表者のみをカウント)
発表者のみポイント 学会プログラムの表紙と演者と演題が分かるページのコピーを、資料記号(資料2-(3))を記入した上で提出

(a) 国際学会

■特別講演演者	15
■特別講演座長	10
■シンポジスト演者	10
■シンポジスト座長	5
■一般口演演者	3
■一般口演座長	2
■ポスター発表者	2
■ポスター発表座長	1

学会名	講演の種類	演者	タイトル	年月日	開催地	ポイント
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0

ポイント小計
0.0

(b) 国内学会

■特別講演演者	15
■特別講演座長	10
■シンポジスト演者	10
■シンポジスト座長	5
■一般口演演者	3
■一般口演座長	2
■ポスター発表者	2
■ポスター発表座長	1

学会名	講演の種類	演者	タイトル	年月日	開催地	ポイント
例)第52回日	ポスター	衣斐 達、佐橋	ミトコンドリア脳	2011.5.20	東京	2.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0

ポイント小計
0.0

(c) 地方会レベル

■特別講演演者	5
■特別講演座長	1
■シンポジスト演者	3
■シンポジスト座長	1
■一般口演演者	1
■一般口演座長	1

学会名	講演の種類	演者	タイトル	年月日	開催地	ポイント
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0

ポイント小計
0.0

(d) その他

■その他研究会などの発表者	1
---------------	---

研究会名	講演の種類	演者	タイトル	年月日	開催地	ポイント
						0.0
						0.0

ポイント小計
0.0

(4)受賞

(a) 全国レベル

賞が確認できる文書のコピーを、資料記号(資料2-(4))を記入した上で提出

■国際レベルに匹敵	50
■上記以外	30

賞の名称	発行団体	受賞年月日	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(b) 地方レベル

■地方でトップクラスの賞	30
--------------	----

■上記以外 10			
賞の名称	発行団体	受賞年月日	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(c) 学会関係

■学会で優れた功績を顕彰	20
■最優秀演題	20
■優秀演題	5

賞の名称	発行団体	受賞年月日	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(d) その他

■上記以外 10			
賞の名称	発行団体	受賞年月日	ポイント
			0.0

ポイント小計
0.0

(5) 外部資金獲得

研究費獲得が確認できる文書のコピーを、資料番号(資料2-(5))を記載した上で提出

(a) 公的機関の研究助成金
(科研/厚労科研/文科省など)

■公的機関の研究助成金 代表	30
■科研/厚労科研/文科省など 分担	10

研究費の名称	代表・分担	支給団体名	年月	代表・分担	ポイント
					0.0
					0.0

ポイント小計
0.0

(b) 財団・NPOなどの研究助成金

■財団・NPOなどの研究助成金 10					
--------------------	--	--	--	--	--

研究費の名称	代表・分担	支給団体名	年月	代表・分担	ポイント
					0.0

ポイント小計
0.0

(c) 企業との受託・共同研究/件

■企業との受託・共同研究/件 10					
-------------------	--	--	--	--	--

研究費の名称	代表・分担	支給団体名	年月	代表・分担	ポイント
					0.0

ポイント小計
0.0

3. 組織運営	(委員会名簿参照)	領域合計点へ	ポイント合計 0.0
(1)大学の委員会/WG			
■任期が通年の委員長・委員については4月1日からのものをポイント換算する (出席点はH24年1月1日から換算する) ■任期が通年でない委員会、WGについては、開始がH24年1月1日からのものとする (出席点については前年度開始のものもポイント換算する) ■委員としての役職ポイントと出席回数を合計する ■委員 2点 出席点 1回0.5点 ■委員長 5点			
委員会名	出席回数	委員長の有無	ポイント
			0.0
			0.0
			ポイント小計 0.0
(2)学部の委員会			
委員会名	出席回数	委員長の有無	ポイント
例)FD委員会	8	有	6.0
			0.0
			0.0
			0.0
			ポイント小計 0.0
学部のWG			
名称	出席回数	委員長の有無	ポイント
例)防災WG	5	無	4.5
			0.0
			0.0
			ポイント小計 0.0
大学院の委員			
名称	出席回数	委員長の有無	ポイント
			0.0
			0.0
			ポイント小計 0.0
実践センターの委員			
名称	出席回数	委員長の有無	ポイント
			0.0
			0.0
			ポイント小計 0.0
(3)病院の委員会/WG			
委員会名	出席回数	委員長の有無	ポイント
			0.0
			ポイント小計 0.0
(4)学部の役割			
■任期が通年のものは4月1日からのものをポイント換算する ■学年主任(アドバイザーに加算) 5点 ■副主任(アドバイザーに加算) 2点 ■アドバイザー 1学年3点 ■学校医 10点 ■ハラスメント相談員 5点			

	学年	期間	ポイント
学年主任			0.0
学年副主任			0.0
アドバイザー			0.0
学校医			0.0
ハラスメント相談員			0.0

ポイント小計
0.0

入学試験(大学センター試験を含む)

■一般入試 本部長 5点 本部員 2点 会場責任者 3点 会場副責任者 1点 健康診断委員 1点 試験監督 1点 受付・救護 1点 採点補助 1点	■推薦・社会人入試 本部長 3点 本部員 1点 (会場責任者、健康診断委員長も兼ねる) 試験監督 1点 センター試験 一日1点
--	---

試験名	役職	月日	ポイント
例)一般入試	監督	2月1日	1.0
			0.0
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

試験監督(看護総合も含む)

試験名	学年	月日	ポイント
例)病態治療1中	2	6月25日	0.5
			0.0
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

学部各種行事への参加

■学部行事 ■新入生研修 企画委員5点 参加1日1点 ■救命講習会 企画委員2点 参加0.5点 ■防災訓練 企画1点 参加0.5点 ■FD研修 企画1点 参加0.5点 ■キャンドルセレモニー 委員1点 ■短期海外留学 引率10点 ■入学/卒業式 参加 0.5点 ■大学祭監督 0.5点 ■その他の役割分担 1回0.5点

行事名	役割	月日	ポイント
例)新入生研修	企画委員	4月20, 21日	5.0
			0.0
			0.0
			0.0
			0.0
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

大学院入学試験

■本部長	3点
■本部員	1点
■(会場責任者、健康診断委員長も兼ねる)	
■試験監督	1点

試験名	役職	月日	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

大学院行事への参加

■準備委員	1点
■参加	0.5点

行事名	役割	月日	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

実践センター入学試験

■本部長	3点
■本部員	1点
■試験監督	1点

試験名	役職	月日	ポイント
			0.0

ポイント小計
0.0

センター行事への参加

■準備委員	1点
■参加	0.5点

行事名	役割	月日	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

4. 社会貢献	領域合計点へ	ポイント合計 0.0
----------------	--------	----------------------

(1)学内

(a)医学部への貢献
研究指導

■大学院研究指導 1名 10点				
領域	指導対象者氏名	研究課題	期間	ポイント
				0.0

ポイント小計
0.0

(b)病院への貢献
診療

■外来診療 1コマ(半日)1点			
診療科	コマ/週	期間	ポイント
			0.0

ポイント小計
0.0

(c)大学公開講座講師

■公開講座講師 10点 ■(癌プロジェクト公開講座も含む)			
公開講座名	開催日	タイトル	ポイント
			0.0

ポイント小計
0.0

(2)学外

(a)学会

(i)国際または全国規模の役員

■全国規模の学会の理事・監事		20点	
■評議員・代議員		10点	
■その他の委員		5点	
学会名	役職	期間	ポイント
			0.0
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(ii)地方会の役員

■地方会の理事・監事		10点	
■地方会レベルの役員		5点	
■看護協会の役員		5点	
学会名	役職	期間	ポイント
			0.0
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(iii)学会開催
証拠書類のコピーを、資料記号(資料4-(2)-(a)-(iii))を記入した上で提出

■全国規模の学会の会長		20点		
■全国規模の学会の委員		3点		
■地方会の会長		10点		
■地方会の学会開催時の委員		1点		
開催学会名	開催日	開催場所	役職	ポイント
				0.0
				0.0
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(b)政府

■委員会など010点			
委員会の名称	名前	期間	ポイント
			0.0

ポイント小計
0.0

(c)自治体

■委員会など05点			
-----------	--	--	--

委員会の名称	名前	期間	ポイント
			0.0

ポイント小計
0.0

(d)新聞・テレビ報道

証拠書類のコピーを、資料記号(資料4-(2)-(d))を記入した上で提出

■全国レベル 20点
■地方レベル 10点

メディア名	月日	内容	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(e)交流

証拠書類のコピーを、資料記号(資料4-(2)-(e))を記入した上で提出

(i)教育・研究連携

■講習会・研修会の講師
3時間を超えるもの 2点
3時間以内のもの 1点

組織名	月日	開催場所	規模(参加者数)	時間	内容	ポイント
						0.0
						0.0
						0.0

ポイント小計
0.0

(ii)他大学での講義

■講義 1コマ1点

大学・学部名	授業科目名	学年	学期	講義コマ数	ポイント
例)A大学	分子病態学	3	前期	1	1.0
					0.0
					0.0
					0.0

ポイント小計
0.0

(iii)医療連携

■ 1回1点

組織名	月日	場所	規模	時間	内容	ポイント
						0.0
						0.0

ポイント小計
0.0

(iv)職能団体などの委員

■委員 2点

組織名	委員の名称	名前	期間	ポイント
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(3)自由記述

■太枠の中を ダブルクリック すると入力できます。
■改行は ALTキーを押しながらENTERキー でできます。
■欄が足りなくなったら 行の挿入 で増やせます。

(自由記述欄)

部門・所属一覧

別紙ご参考2

部門	所属
基礎科学	<基礎科学>一般教育科目心理学
	<基礎科学>一般教育科目数学
	<基礎科学>一般教育科目物理学
	<基礎科学>一般教育科目化学
	<基礎科学>一般教育科目生物学
	<基礎科学>外国語科目外国語
	<基礎科学>一般教育科目哲学
	<基礎科学>保健体育科目保健体育

部門	所属
基礎医学	<基礎医学>解剖学
	<基礎医学>生理学
	<基礎医学>生化学
	<基礎医学>薬理学
	<基礎医学>病理学
	<基礎医学>感染・免疫学
	<基礎医学>衛生学
	<基礎医学>公衆衛生学
	<基礎医学>法医学
	<基礎医学>微生物・免疫学
	<基礎医学>寄生虫学

部門	所属
臨床・内科学	内科学(消化器内科)
	内科学(循環器内科)
	内科学(呼吸器・アレルギー内科)
	内科学(内分泌・代謝内科)
	内科学(神経内科)
	内科学(腎臓・リウマチ膠原病内科)
	内科学(血液内科)
	内科学(糖尿病内科)
	病院消化器内科
	病院循環器内科
	病院呼吸器・アレルギー内科
	病院神経内科
	病院腎臓・リウマチ膠原病内科
	病院血液内科
	病院内分泌・代謝内科

部門	所属
臨床・外科学	外科学(消化器外科)
	外科学(呼吸器外科)
	外科学(乳腺・内分泌外科)
	外科学(心臓外科)
	外科学(血管外科)
	病院消化器外科
	病院心臓外科
	病院血管外科
	病院乳腺・内分泌外科
	病院呼吸器外科

部門	所属
臨床・その他	<臨床医学>精神科学
	<臨床医学>小児科学
	<臨床医学>脳神経外科学
	<臨床医学>整形外科
	<臨床医学>皮膚科学
	<臨床医学>泌尿器科学
	<臨床医学>眼科学
	<臨床医学>耳鼻咽喉科学
	<臨床医学>産婦人科学
	<臨床医学>放射線医学
	<臨床医学>麻酔科学
	病院精神神経科
	病院小児科
	病院脳神経外科
	病院整形外科
	病院皮膚科
	病院泌尿器科
	病院眼科
	病院耳鼻咽喉科
	病院産科・婦人科
	病院放射線科
	病院麻酔科
	病院総合診療科
	病院形成外科
	病院救命救急科
	病院リハビリテーション科
	病院睡眠科
	病院感染症科
	病院歯科口腔外科
	病院医療情報部
	病院病理部
	化学療法センター
	感染制御部
	周術期集中治療部
	生殖・周産期母子医療センター
	脊椎脊髄センター
	卒後臨床研修センター
	中央手術部
	中央臨床検査部
	中央臨床検査部管理室
	糖尿病センター
	脳卒中センター
	薬剤部
	輸血部
	臨床研究支援部門
	臨床腫瘍センター

部門	所属
付属施設等	メディカルクリニック
	運動療育センター
	学際的痛みセンター
	医学教育センター
	総合医学研究機構動物実験部門
	高度研究機器部門
	先端医学研究センター
	加齢医科学研究所
	加齢医科学研究所神経病理部門
	分子医科学研究所
	分子医科学研究所第一部門
	産業保健科学センター
	総合医学研究機構
	総合医学研究機構医学部先端医学